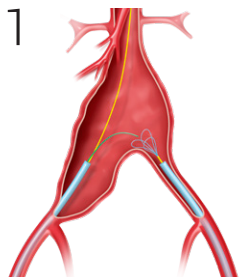
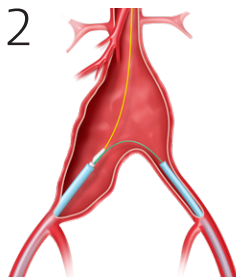


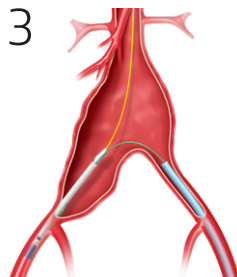
留置ステップ (IBEを対側に用いた場合)



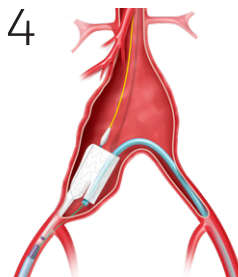
1 IBE留置側よりゴア®ドライシールフレックスイントロデューサシース(以下ドライシールフレックスシース)の挿入後、軟質ガイドワイヤーとスネアを用いてブルスルーを作成する。



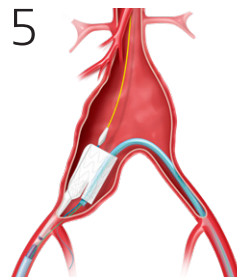
2 IBE留置側より、2本のガイドワイヤーに沿ってイリアック・ブランチ・コンポーネント(以下IBC)を進める。



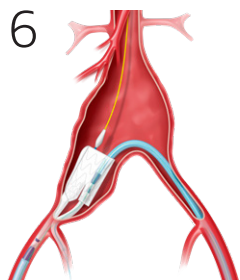
3 IBE留置側のシースを引き下げ、インターナルイリアック・ゲート部を示すX線不透過マーカリングが内腸骨動脈の起始部より中枢に位置するように調整する。



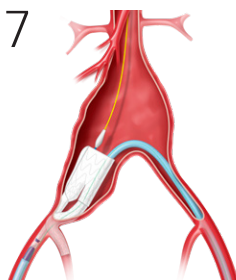
4 プロキシマルディプロイメントノブ(写真③参照)を引き、IBC中枢側を展開する。反対側から12 Fr×45 cmのドライシールフレックスシースをインターナルイリアック・ゲート内まで進める。



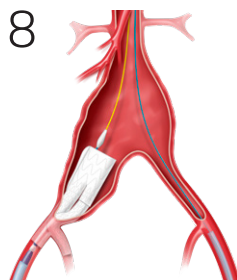
5 内腸骨動脈へガイドワイヤーをカニューレションする。中枢側のみ展開したIBCは左右90度以内のローテーションおよび内腸骨動脈へのカニューレションを容易にするために末梢側へ移動させることができる。



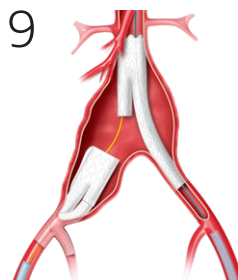
6 インターナルイリアック・コンポーネント(以下IIC)を進め、IIC中枢側のマーカとIBCのロングマーカの位置を合わせる(オーバーラップ)。



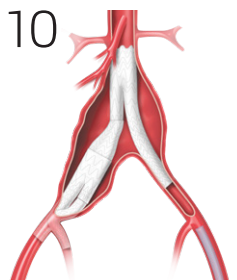
7 IICの展開を行い、接合部および内腸骨動脈へのランディング部分のバルーン圧着を行う。その後スルーワイヤーを抜去する。



8 ディスタルディプロイメントノブ(写真④参照)を引き、未展開のIBC同側末梢脚部(外腸骨動脈側部)を展開する。



9 12 Fr×45 cmドライシールフレックスシースからトランクイシラテラル・レッグ(以下メインボディー)留置に必要なシース(16 Frもしくは18 Fr)に交換する。メインボディーを展開する。



10 23 mmもしくは27 mmのコントララテラル・レッグを用いて、メインボディーとIBCを連結(ブリッジング)する。

STAGED DEPLOYMENT



[写真①]



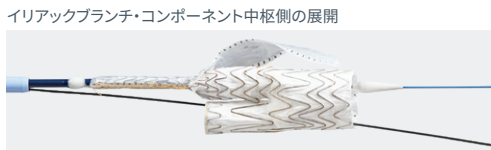
プレカニューレションされたインターナルイリアック・ゲート

[写真②]

プロキシマルディプロイメントノブ

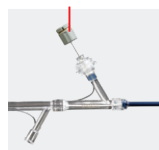


[写真③]



イリアック・ブランチ・コンポーネント中枢側の展開

ディスタルディプロイメントノブ



[写真④]



イリアック・ブランチ・コンポーネント同側末梢脚部の展開

SIZING GUIDE

トランクイブシラテラル・レッグ(メインボディ)

中脛側対象血管内径 (mm)	ステントグラフト 大動脈側直径 (mm)	末梢側対象血管内径 (mm)	ステントグラフト 末梢側直径 (mm)	ステントグラフト長 (cm)	推奨シース (Fr)
19-21	23	10-11/12-13.5	12/14.5	12/14/16/18	16
22-23	26	10-11/12-13.5	12/14.5	12/14/16/18	16
24-26	28.5	10-11/12-13.5	12/14.5	12/14/16/18	18
27-29	31	12-13.5	14.5	13/15/17	18
30-32	35	12-13.5	14.5	14/16/18	18

イリアックブランチ・コンポーネント

外腸骨動脈対象血管内径 (mm)	ステントグラフト末梢側直径 (mm)	ステントグラフト長 (cm)	推奨シース (Fr)
6.5-9	10	10	16
10-11	12	10	16
12-13.5	14.5	10	16

インターナルイリアック・コンポーネント

内腸骨動脈対象血管内径 (mm)	ステントグラフト末梢側直径 (mm)	ステントグラフト長 (cm)	推奨シース (Fr x cm)
6.5-9	10	7	12 x 45
10-11	12	7	12 x 45
12-13.5	14.5	7	12 x 45

コントララテラル・レッグ* (ブリッジング用コントララテラル・レッグ)

総腸骨動脈対象血管内径 (mm)	ステントグラフト末梢側直径 (mm)	ステントグラフト長 (cm)
17-21.5	23	10/12/14
>21.5	27	10/12/14

IBE 治療側に必要な長さ

-IBEをC3トランクイブシラテラル・レッグの対側を用いた場合

トランクイブシラテラル・レッグ (メインボディ) ステントグラフト直径 (mm)	低位腎動脈から内腸骨動脈分岐部までの長さ (cm)
23, 26, 28.5	16.5
31	17.5
35	18.5

IBE 治療側に必要な長さ

-IBEをC3トランクイブシラテラル・レッグの同側を用いた場合

メインボディ ステントグラフト直径 (mm)	低位腎動脈から内腸骨動脈分岐部までの長さ (cm) 23 mmコントララテラル・レッグ使用時*	低位腎動脈から内腸骨動脈分岐部までの長さ (cm) 27 mmコントララテラル・レッグ使用時**
23, 26, 28.5	19.5	20.5
31	20.5	21.5
35	21.5	22.5

*コントララテラル・レッグをイリアック・エクステンダーとして使用する際にはゴア®エクスクルーダー®のメジャメント・デバイスセクションフォームを参照すること。

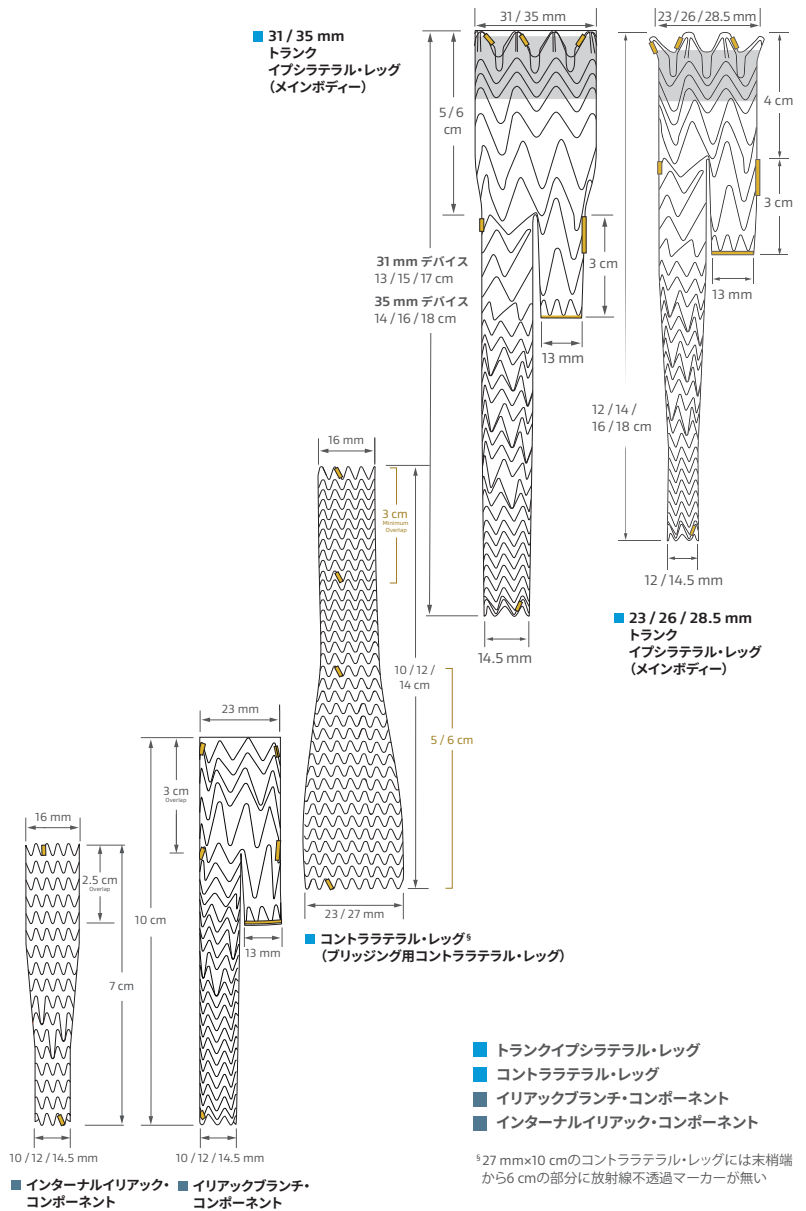
**末梢側5 cmのテーパ形状部がメインボディとの接合部分に位置しないこと。

**末梢側6 cmのテーパ形状部がメインボディとの接合部分に位置しないこと。

Aortic Accessories

ゴア® ドライシール フレックス イントロデューサシース

品番	規格 (Fr x cm)
DSFI233	12 x 33
DSFI245	12 x 45
DSFI433	14 x 33
DSFI633	16 x 33
DSFI833	18 x 33



- トランクイブシラテラル・レッグ
- コントララテラル・レッグ
- イリアックブランチ・コンポーネント
- インターナルイリアック・コンポーネント

*27 mm x 10 cmのコントララテラル・レッグには末梢側から6 cmの部分に放射線不透過マーカーが無い

ゴア® MOB バルーンカテーテル

品番	拡張レンジ (mm)	バルーン長 ¹ (cm)	カテーテルシャフト有効長 (cm)	適合シース径 (Fr)	適合ワイヤー径 (inch)	推奨する拡張溶液の使用量 バルーン拡張径 拡張用液量 (mL)	
MOB37	10-37	4	90	10 以上	0.035	10	2
						20	7
						30	16
						37*	35

注意:

- ・使用の際には添付文書(電子化された添付文書)を参照すること。
- ・表の数値は推奨値であるため、バルーンの拡張はX線透視下で確認しながら行うこと。
- ・バルーンを血管径よりも大きく拡張させないこと。
- ・最大バルーン拡張径(37 mm)を超えて拡張させないこと。
- ・最大バルーン拡張径(37 mm)に対して拡張溶液量48 mLを超えないこと。

¹公称値

*最大バルーン拡張径

販売名: エクスルーダー® Y字型ステントグラフトシステム 承認番号: 21900BZY00011000

販売名: ゴア® ドライシール フレックス イントロデューサシース 承認番号: 22800BZX00461000

販売名: ゴア® MOBバルーンカテーテル 承認番号: 23000BZX00170000

ゴア, GORE, Together, improving life, エクスルーダー®, IBE, EXCLUDER, MOBおよび記載のデザイン(ロゴ)は, W. L. Gore & Associates の商標です。

© 2022 W. L. Gore & Associates, Inc. / 日本ゴア合同会社 22446601-JA MAY 2022

製造元 W. L. Gore & Associates, Inc.

製造販売元 **日本ゴア合同会社**
メディカル・プロダクツ・ディビジョン

〒108-0075 東京都港区港南1-8-15 Wビル
T 03 6746 2560 F 03 6746 2561 gore.co.jp

